

事業報告

令和3年度 教育事業 信州高遠サマーキャンプ

令和3年8月6日（金）～10日（火）
【対象】小学生・中学生
【場所】国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

4泊5日のキャンプを通して、自然のすばらしさや偉大さを感じるとともに、仲間と協力して様々な活動に挑戦することで生きる力を育む機会とする。

2. 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

3. 研究概要

(1) 実践研究事業のテーマ

「学びに向かう力、人間性等を育成する体験活動」

学びに向かう力、人間性等とは新学習指導要領において身に付けたい能力資質の1つである。それらの能力の素地について体験活動等を通して育成していくことを目的とする。

(2) 育成したい力の具体

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力
- ・自己の感情や行動を統制する能力
- ・自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力
- ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力
- ・持続可能な社会づくりに向けた態度
- ・リーダーシップやチームワーク
- ・感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの

先行研究による分類等を参考にし、ここでは学びに向かう力、人間性等を以下の5つとした。



(3) 調査方法について

上記の5つの項目に対応する質問内容を、事前・事後・追跡と3回のアンケート調査を行い、変容を分析した。また、事後・追跡アンケートについては変容の有無や度合いがわかるよう前回のアンケートでの自分の回答を記した。

(4) 企画委員（順不同）

傘木 靖 氏（長野県山岳総合センター 所長）

瀧 直也 氏（国立大学法人信州大学 教育学部 講師）

笹川 隆広 氏（南信州山岳ガイド）

4. 事業概要

(1) 日程

令和3年8月6日（金）～10日（火） 4泊5日

月日	曜日	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	宿泊地	
8月6日	金								受付	開会式	仲間づくり テント設営		夕食	入浴	休憩	1日の まとめ 登山装備 確認	就寝 準備	就寝	自然の家
8月7日	土		起床	野外炊飯	活動 準備	守屋山登山 (自然の家～守屋山山頂～自然の家)			休憩 荷物整理	野外炊飯			入浴	登山につ いてのガ イダンス	1日の まとめ	就寝 準備	就寝	自然の家	
8月8日	日		起床	テント 整理	朝食	活動 準備	移動	登山チャレンジ(1日目) 【周辺の山域】			休憩 荷物整理	夕食	1日の まとめ	就寝 準備	就寝			山小屋泊	
8月9日	月	起床	朝食	活動 準備	登山チャレンジ(2日目) 【周辺の山域】			入浴	移動	野外炊飯			1日の まとめ	就寝 準備	就寝		自然の家		
8月10日	火		起床	散策	朝食	清掃 テント撤収 荷物整理	キャンプのまとめ		昼食	閉会式	解散								
月日	曜日	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	宿泊地	

(2) 参加者

小学5年～中学2年生（計15名）

	小5	小6	中1	中2	中3	計
男	4	2	2	0	0	8
女	2	3	1	1	0	7
計	6	5	3	1	0	15

（長野県11名、愛知県1名、岐阜県1名、京都府1名、岡山県1名）

(3) 班編成

3班（5名/1班）

各班にボランティアスタッフ2名帯同

本部ボランティアスタッフ2名

信州高遠線少年自然の家職員 4名

登山ガイド1名（登山チャレンジ時）

※その他サポートとして自然の家職員 若干名

5. 活動の様子

【1日目】 テント張り、事業フラッグづくり



【2日目】 守屋山山頂、登山研修



【3・4日目】 西駒登頂、西駒山頂



【5日目】 テント撤収、閉会式



6. 保護者の声（一部抜粋）

- ・台風と重なってしまいスタッフの皆様にはご尽力いただき、ありがとうございました。写真などからサマーキャンプの様子が伝わってきました。大学生ボランティアの話もたくさんしてくれて、自分も将来ボランティアやスタッフのようになりたいと話していました。
- ・キャンプ後周囲の力をかりずに自分で挑戦するようになりました。また、姉妹に対して驚くほど優しくなりました。参加できて本当に良かったです。
- ・もっと自然の家にいたかったと話しておりました。1つ1つの活動についての話が、自信に満ち溢れていました。（登山中1度も弱音を吐かなかった、班の友達を助けた等）また、絶対に参加したいそうです。
- ・キャンプで体験したことや覚えたことなどを家でも進んで取り組んでくれたり、家族に教えてくれたり本人の自信につながっていると思います。
- ・学校でクラスみんなに自分の体験したことをスピーチで報告したり、レポートにまとめたりしたようです。
- ・料理の手伝いをしたいと言ったり、以前よりもさまざまなことに興味を示すことが多くなりました。家族は誰も登山をしたことがなかったのですが、子どもの楽しそうな話を聞いていると家族でも山登りに行きたくなりました。

7. 分析

(1) 「学びに向かう力、人間性等」のデータ分析（信州大学 瀧 直也氏）

質問	N	事前8/6		事後8/10		追跡9月		F値	P値	η^2	多重比較
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD				
全体	15	61.20	7.52	65.67	8.47	65.27	8.20	1.41	0.256	0.063	
好奇心	15	13.07	1.58	14.00	1.25	14.00	1.36	2.21	0.123	0.095	
協調性	15	12.73	1.94	14.13	1.64	14.13	1.25	3.66 *	0.034	0.148	pre<post1†,pre<post2†
自己主張	15	9.27	2.76	10.20	2.98	10.13	2.45	0.54	0.586	0.025	
自己抑制	15	13.33	1.95	13.40	2.29	13.53	2.20	0.03	0.967	0.002	
がんばる力	15	12.80	2.04	13.93	1.71	13.47	2.20	1.22	0.304	0.055	
1	15	4.53	0.74	4.73	0.46	4.73	0.46	0.62	0.544	0.029	
2	15	4.27	0.80	4.87	0.52	4.87	0.35	5.25 **	0.009	0.200	pre<post1*,pre<post2*
3	15	4.07	0.88	4.60	0.63	4.47	0.83	1.85	0.170	0.081	
4	15	4.40	1.12	4.47	1.06	4.53	1.06	0.06	0.945	0.003	
5	15	4.47	0.74	4.80	0.41	4.47	0.83	1.17	0.319	0.053	
6	15	4.53	0.64	4.93	0.26	4.80	0.41	2.88 †	0.067	0.121	pre<post1†
7	15	4.00	0.65	4.67	0.62	4.47	0.83	3.50 *	0.039	0.143	pre<post1*
8	15	4.13	0.83	4.40	0.91	4.47	1.06	0.53	0.593	0.025	
9	15	4.33	0.82	4.20	1.01	4.33	1.23	0.08	0.921	0.004	
10	15	4.00	1.07	4.47	0.92	4.40	1.12	0.89	0.420	0.040	
11	15	4.00	0.85	4.33	0.82	4.47	0.92	1.17	0.320	0.053	
12	15	4.47	0.92	4.60	0.74	4.80	0.41	0.82	0.449	0.037	
13	15	4.27	0.59	4.80	0.41	4.60	0.83	2.70 †	0.079	0.114	pre<post1†
14	15	4.60	0.63	4.73	0.46	4.67	0.62	0.20	0.818	0.010	
15	15	4.33	0.90	4.67	0.72	4.60	0.63	0.81	0.453	0.037	

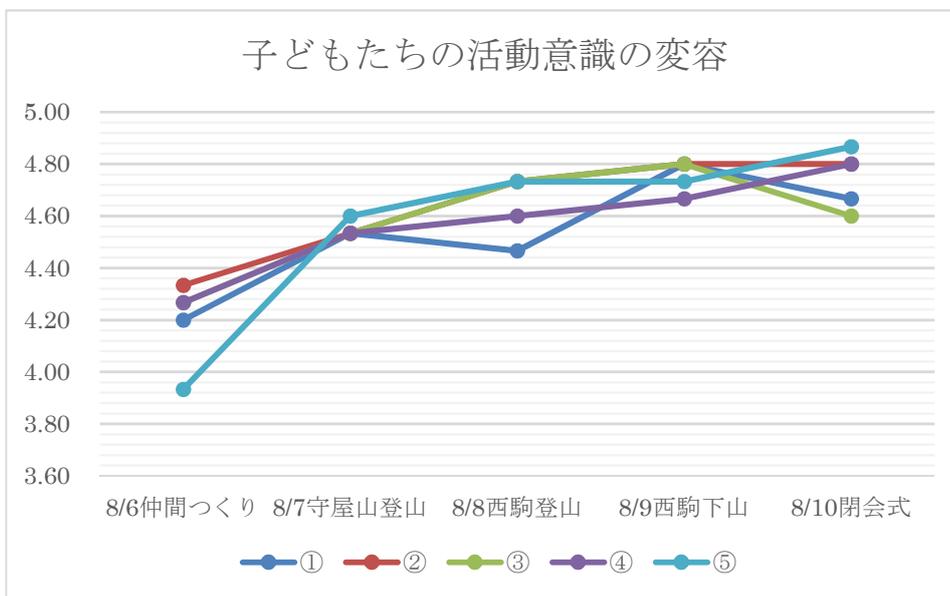
†p<.10 *p<.05 **p<.01 ***p<.001

$\eta^2 \geq 0.14$ 効果量大、 $\eta^2 \geq 0.06$ 効果量中 $\eta^2 \geq 0.01$ 効果量小

協調性には5%水準で有意差が確認できた。関連する質問2は事前から事後にかけて、事前から追跡にかけて有意差が出ており、キャンプで向上したものが追跡時も継続していたと言える。また、効果量(η^2)では、全体でも中程度の効果があったと言え、構成因子の「好奇心」「協調性」にも中程度の効果があったという結果が出た。

質問項目	5から1までの選択肢の平均値				
	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10
1 自分から友だちに考えや思いを伝えることができたと思う。	4.20	4.53	4.47	4.80	4.67
2 グループの友だちの考えを聞き、理解したり、一緒に考えたりしたと思う。	4.33	4.53	4.73	4.80	4.80
3 グループの目標達成のために、積極的に活動することができたと思う。	4.27	4.53	4.73	4.80	4.60
4 これまでの生活で自分が気づいたり、考えたりしたことを今日の活動で生かすことができたと思う。	4.27	4.53	4.60	4.67	4.80
5 自分の立てた活動の目標に向かって活動することができたと思う。	3.93	4.60	4.73	4.73	4.87

選択肢：⑤すぐあてはまる ④わりとあてはまる ③あてはまる ②あまりあてはまらない ①全くあてはまらない



(3) ボランティアによる当日の活動の見取り

木曾駒ヶ岳を下山中、後ろを歩いていた仲間に対しても気を配り、躓いていたり転んでしまった際には、「大丈夫?」「けがはない?」というように即座に仲間の変化に気づき声をかけていた。【協調性】 S

登山中、浮き石やすべりやすい場所、針金が飛び出ているところを見つけると「ここ危ないから気を付けて」と後ろにいる班の仲間に声掛けを行っている姿が見られた。【協調性】 M

あまり積極的に発言するタイプだとは思わなかったが、前日の登山の講義で浮石について学んだからか、みんなが踏みそうな石で浮いている石を「これ浮石!」と教えてくれた。【がんばる力】 S

下山は雨が降っていて風が強く吹いていたが、一生懸命歩いていた。班員に対して「頑張り」と声を掛けたり、「この石滑るよ」と後ろを歩いていた私に教えてくれたりした。前日の姿とは一変し、班員を助ける班長になっていた。【がんばる力】 M

守屋山登山のとき、「帰りたい」などの弱音を吐いていたが、木曾駒ヶ岳登山のときは、ボランティアや仲間「あとちょっとがんばろう」と声をかけてもらいながら、最後は弱音を吐くことなく、諦めずに歩いていた【がんばる力】 M

初日は、自分の準備を進めるのに精一杯の様子だったが、4日目の夜には、言われなくても自分でしおりを見て、「明日の準備、今日のうちに進めなくちゃ」とつぶやき、仲間と共有していた。【自己抑制】 I

最初は受け身で発言数も少なかったが、カレーの具材を決める場面や、それを作るときの役割分担をするときなどでは、自分の希望を言うことができるようになっていく姿が見られた。【自己主張】 I

野外炊飯のメニューを決めるとき、入れたい野菜や肉の種類をみんなに伝えている姿が見られた。そして、一日の振り返りで「自分の意見を聞いてくれて嬉しかった」と記入していた。【自己主張】 A

野外炊事の際「他にやることない？」と、積極的に仕事を行おうとする姿勢が見られた。【自己主張】 M

木曾駒ヶ岳山頂にて「なんでこんな所に神社があるんだろう。シーサー置いてあるけどなんでだろう？」とボランティアに質問していた。【好奇心】 T

7. 成果と課題

- スタッフの姿勢や活動プログラムでの目標を予め職員やボランティア間で周知を行ったため、それぞれの付けさせたい力にそった声掛けや支援を行うことができた。
- 子どもたちの活動意識の変容からは、キャンプが進むにつれて多くの質問項目において緩やかに上昇しており、各活動プログラムが子どもたちの意識に影響したことが考えられる。
- 登山に不安を抱えているボランティアが多かったため、スタッフ事前研修を行い、当山用の貸出物品についてさらに周知を広めていく必要があった。
- 今回は4泊5日という期間の中で、登山をメインの活動プログラムとし、生きる力（特に学びに向かう力、人間性等）について子どもたちの変容を追った。しかし、途中台風の影響で下山時には強風や雨に見舞われた。悪天候時にも対応できる活動プログラムの設定やキャンプの期間についても検討していく必要がある。